

特集

学芸員とのかぞく 江戸時代の豊橋

江戸時代に豊橋は「吉田」と呼ばれ、東海道の宿場町として栄えました。江戸時代と聞くと遠い昔のように感じますが、学芸員が行う研究や調査により、当時の武士や町民の仕事や暮らしが詳しく分かってきました。

今回は、そんな江戸時代の吉田のようすを学芸員が紹介します。

問合せ 広報広聴課(☎51・2164)

私たちが紹介します



文化財センター 所長
岩原 剛



美術博物館 学芸員
久住 祐一郎



中央図書館 主幹学芸員
岩瀬 彰利

秀吉の権威を 隠した吉田藩の 政治戦略

豊臣秀吉は1590年に天下統一を果たすと、その権威を全国に示すため、数々の城の再整備を行いました。吉田城もその一つで、豊臣政権で重要な役職を担っていた城主の池田輝政は、政権の権威の象徴として天守を築きました。天守には、豊臣家の家紋が入った瓦の使用を特別に許されるなど、秀吉からの信頼が厚かったことがうかがえます。

しかし、1600年の関ヶ原の戦いの後、政権を握った徳川家康にとっては、こうした秀吉の権威の痕跡は目障りなものでした。そこで吉田藩は、豊臣政権の時に築かれた天守を櫓と言い換え、本丸の再整備では、徳川家好みの西三河の花崗岩を使って石垣を築きました。

この姿勢が認められ、徳川政権の優等生として吉田藩主は幕府の老中などの重要な役職を度々任されることとなり、吉田藩を発展させることに成功したのです。



意外に知られていませんが、本丸御殿は、将軍の宿泊所として建てられました。



吉田城桐紋鬼瓦(表)



天守を櫓と言い換えていることが分かる
吉田城本丸二之丸略絵図(部分)

豪華な大名行列 実は派遣社員

江戸時代、幕府が藩主に1年おきに江戸と領地を往復するよう命じた参勤交代。吉田藩主は幕府の重要な役職を任されることが多かったため、他の藩主のように頻繁に行う必要がありませんでした。それでも参勤交代の要請があれば、約300人の行列を編成する必要がありました。

約300人の行列ともなると、参勤交代には風呂おけなどの生活用品や武器のほかにも多くの荷物が必要になります。身分社会の江戸時代において、身分の高い武士は随行しても荷物を運ばないため、参勤交代の度に大勢の人を雇い、運ばせていました。こうした人は現代の派遣社員のようになり、さまざまな大名の行列で働いており、その数は全体の7〜8割にも及びました。また、同じ派遣社員でも役割によって賃金に差があり、殿様の駕籠を担ぐ人や行列の象徴である鎗を持つ人は優遇されていました。



殿様の駕籠を担ぐ人は、見栄えを重視して美男であることも条件であったようです。



松平伊豆守行列図(個人蔵)

町民の思いが 残した歴史 神社に作られた 民間図書館



羽田八幡宮文庫

江戸時代末期、1848年に羽田八幡宮の神主羽田野敬雄や町民らによって私設文庫「羽田八幡宮文庫」が設立されました。吉田宿に訪れた文化人などから約3千巻の書物を集めた町民がいたことから、これらを残そうと神主たちが出資を募り、町民から集まった184両(約800万円)で羽田八幡宮文庫を建てたのです。文庫では、書物の閲覧や貸し出しを無料で行っており、近代的な図書館の先駆けとして知られています。

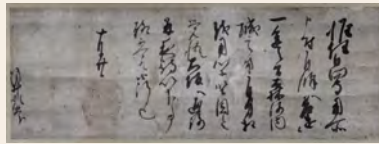
さらに、文庫からは織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の書簡や、水戸黄門でお馴染みの徳川光圀の直筆の書状など貴重な資料が発見されています。吉田藩の家老に伝わったものが文庫に奉納されたと考えられており、吉田藩と町民の信頼関係がうかがえます。

全国的な本の無料貸し出しが行われたのは戦後なので、江戸時代の豊橋で行われていたことは驚きです。



▲求肥飴をもらったお礼が記された水戸光圀書翰(羽田八幡宮所蔵)

明智光秀の名が記され、天下布武の朱印が押された織田信長書翰(羽田八幡宮所蔵)

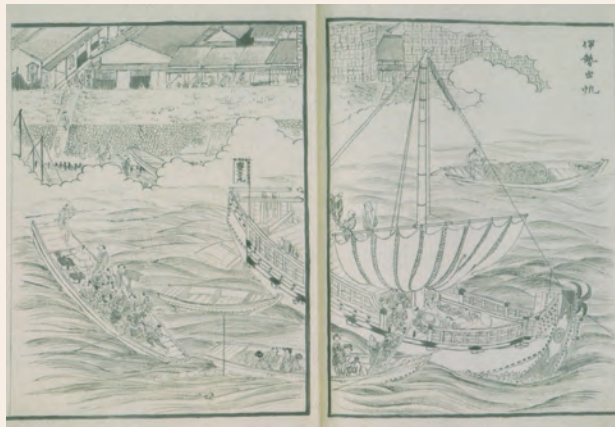


きらびやかな女性の祭典 おんぞ 御衣祭

今も湊神明社で5月に行われている御衣祭。江戸時代中期から、奥三河の糸を使い遠州で織られた御衣を伊勢神宮に奉納することを祝う祭として行われ、13・14歳の女兒が華やかな衣装や装飾品で着飾り、歌を歌いながら練り歩きました。この祭りは反物のお披露目の場ともなっていたようです。明治8年に国の政策により奉納自体が中止され一度途絶えましたが、その後、豊橋が紡織産業で発展したことや女性の祭りという珍しさもあり、後世に祭りを残そうと、昭和24年に再び行われるようになりました。



三河湾から 船で近道 お伊勢参りは 海路で決まり



三河国名所図絵 伊勢出帆(古橋懐古館所蔵)

江戸時代の人々にとって、お伊勢参りは一生に一度は経験したい憧れの旅でした。伊勢神宮への参拝客を世話する御師が、全国から参拝客を呼び集めたため、各地の旅人がこぞって伊勢を目指しました。東から吉田宿まで来た旅人は、陸路を歩けば伊勢まで約5日かかるところ、吉田



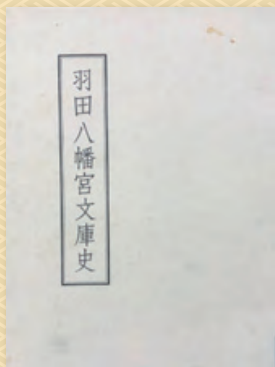
伊勢参詣ルート

吉田から伊勢の間にある熱田宿や佐屋宿は、旅行者を奪われ吉田を訴えたほど、この航路は大人気でした。

宿の船町から参宮船に乗れば、わずか半日で伊勢に渡ることができました。この航路は当時の旅行ガイドブックにも掲載されたため、多くの旅人が利用し、吉田宿は船賃収入などで大変潤いました。

読んで学ぼう 豊橋の歴史

吉田を学べる本を貸し出しています



羽田八幡宮文庫史

編集:羽田八幡宮文庫史編集委員会
出版:豊橋市中央図書館

羽田八幡宮文庫の成り立ちや、羽田野敬雄ら創設に関わった人々の思い、慈善事業などの活動が分かりやすく解説されており、文庫の歴史が分かる1冊です。



シリーズ藩物語 三河吉田藩

著者:久住 祐一郎
出版:現代書館

三河吉田藩の歴史を読みやすくまとめた一冊。歴代藩主の業績、城下町や宿場町のように、学芸・祭礼の文化などを分かりやすく解説しており、現在の豊橋へ繋がる郷土の歴史を身近に感じることができます。



今川・松平が奪いあった「水城」 三河吉田城

編集:岩原 剛
出版:戎光祥出版

東海道の最重要拠点だった吉田城が、どのようにして築かれ、整備されたのか明らかにしています。時代ごとの吉田城の姿などを考古・文献・建築・城郭の各分野の専門家が、最新の研究成果をもとに吉田城の実態に迫ります。

ところ 中央図書館

問合せ 中央図書館 ☎31・3131